

胸部単純 X 線写真・CT で認める正常変異:気道・胸膜・胸壁

藤澤英文(昭和医科大学横浜市北部病院 放射線科)

画像で描出される数多くの正常変異を知っておくことは、誤った診断を減らし不要な精密検査を省くことにつながる。胸部単純X線写真で正常変異所見を正しく診断できれば、診断目的でのCT検査を回避することが可能になる。CTで正常変異所見を指摘することで、過剰な経過観察CTを省くことができる。

胸部単純X線写真の読影において、真の肺結節と見誤りやすい正常変異所見は日常的に数多く経験され、的確に診断することの意義は大きく臨床的にも重要である。気道の正常変異や奇形は反復性肺炎や喀血などの原因となることがあり、これを知っておくことは有益である。肋骨の正常変異や奇形もよく遭遇し、バリエーションは多岐にわたる。

CTはX線写真所見の真偽を明確に判定でき、単純X線写真ではわかりにくい正常変異も診断可能である。

CT所見からX線写真所見を振り返り、両者の対比を繰り返すことで胸部単純X線写真の読影力は向上し、正常変異所見をいままで以上に的確に拾い上げることができるようになるであろう。本講演では気道、胸壁、胸膜に生じる様々な正常変異、奇形、病的意義に乏しい病態などについて、単純X線写真所見とCT所見を概説する。